

闘牛のまちうるま市

古くから大衆娯楽として親しまれてきた沖縄の闘牛。特にうるま市は闘牛が盛んで、全国で初めて「闘牛のまち」を宣言しました。



ビギナーにもわかる闘牛の楽しみ方

「逃げたら負け」の一発勝負で勝敗が決まる闘牛の試合。1トンを超える牛同士が「ガツン!」と角をぶつけ合う音や、必死に相手を倒そうとする迫力の真剣勝負は見ているだけでも楽しめますが、闘牛特有の技を知っているとさらに面白さが増します。例えば、相手の角に自分の角を引っ掛けて首を捻じ曲げる「カケ」。相手の懐に飛び込んで腹に向けて攻撃する「腹取り」は、決まれば大抵は勝敗が決するっておきの技です。このような技を使いながら数秒で決着がつくこともあれば、30分以上続くことも。最終的に

は、お尻を向けて逃げた牛が負けとなります。もう一つ注目したいのが、ユニークな牛のネーミングの数々です。「パンダ」「アコー」などの体の色や模様、「トガイー」「タッチー」「ヒーゲー」など角の形の特徴を盛り込んだりします。名前でお目当ての牛を選んでみるのもおすすめです。ほとんどの闘牛場はすり鉢状になっていて、直径18メートル前後の土俵を取り囲むように客席が並んでいるので、後方の席でも見やすいのが特徴です。

沖縄の新しい観光コンテンツとして注目されています!



- カケ**
相手の角に自分の角を掛けてひねる
- ワリ・ツキ**
相手の頭や顔を角で突く
- 押し**
額をひたすら押し付ける
- 持たせ込み**
相手の首に自分の首を掛けてのしかかる
- 腹取り**
相手の隙を狙い、横腹を一気に襲う

県内唯一のドーム型闘牛場で闘牛を楽しもう!

石川多目的ドーム

平成19年5月に完成した県内唯一のドーム型闘牛場で、収容人数はおよそ3,000人。沖縄県闘牛組合連合会が主催する県内最大規模の「全島闘牛大会」を含め、県内

のほとんどの大会が石川多目的ドームで開催されています。闘牛大会は年間約25回で、闘牛以外のイベント会場としても使用され、活用の幅が広がっています。



闘牛は家族



うるま市では、子どもたちも積極的に牛の世話に関わり、散歩や餌やりも行い、家族のように大切に育てられています。

うるま市石川多目的ドームMAP



うるま市石川多目的ドーム敷地内には世界にココだけ! ポケモンマンホール「ポケふた」もあるよ!

闘牛情報はこちらをチェック!



闘牛公式サイト (闘牛inOkinawa Blog)



闘牛のまち (うるまいろ)

石川インターから1分、西海岸リゾートから約10分。